

## 「iPS細胞由来ドーパミン神経前駆細胞を用いた パーキンソン病治療に関する医師主導治験」の進捗について（経過報告）

### 1. 概要

京都大学医学部附属病院では、2018年8月より、「iPS細胞由来ドーパミン神経前駆細胞<sup>注1</sup>を用いたパーキンソン病治療に関する医師主導治験」を開始しております。本治験の現在の進捗状況についてご報告いたします。本治験で得られるデータの正確性と信頼性を保つために、経過中の詳細情報は差し控えさせていただきます。何卒ご了承ください。

### 2. 登録状況

本治験は、予定された症例登録を完了いたしました。  
新たな募集はありません。  
治験参加にご協力いただきありがとうございました。

### 3. 細胞移植の実施状況

2021年は予定されていた合計7名の患者さんへの細胞移植を完了しました。2023年末をもって細胞移植後の検査や観察も無事終了しました。長い間、治験にご協力いただきありがとうございました。

### 4. 今後の展開

2024年はデータ固定後に統計解析を行って治験結果をまとめたあと、論文等にて公表を予定しております。今後とも温かいご支援をよろしくお願いいたします。

### 5. 用語解説

注1) ドーパミン神経前駆細胞

ドーパミンは神経伝達物質の一つです。パーキンソン病は、ドーパミンを産生する神経細胞が進行性に失われ脳内のドーパミン量が減少することにより発症します。ドーパミン神経前駆細胞とは、後にドーパミンを産生ようになる若い神経細胞です。パーキンソン病モデル動物を用いた研究から、ドーパミン神経前駆細胞を脳内に移植するとこの細胞がドーパミンを産生するようになり、神経症状を改善する効果が明らかになっています。